

乳がん高度検診・治療センター

NEW—すNo.107

患者さん向け

乳がん診療ガイドラインの改訂

乳がんは女性がかかるがんの第一位ですが、比較的若い年齢層に多いこともあって、自ら乳がんについて積極的に知識を吸収しようとする患者さんが少なくありません。乳がんについての情報はインターネットを介して洪水のようにあふれる時代ですが、「正しい情報」となると数は限られます。最も信頼できる情報源として日本乳癌学会の出している「患者さんのための乳がん診療ガイドライン」が勧められます。この患者さん向けガイドラインが今年（2023年）改訂されましたので、紹介します。

患者さん向けの乳がん診療ガイドラインについて

ほとんどのがんについて、それぞれ関係する学会の公的な刊行物として診療ガイドラインが整備されていますが、乳がんはその先頭を走っていると言っても過言ではありません。一般にガイドラインとは医師向けを指しますが、乳がんについては患者さん向けのガイドラインが存在する数少ない領域です。患者さんが知りたい疑問点についてわかりやすく解説されたのが「患者さんのための乳がん診療ガイドライン」です。その初版は2006年版ですが、定期的に改訂され、今回「患者さんのための乳がん診療ガイドライン2023年版」として刊行されました。今回の改訂版では、最新の医療情報をもとに、患者さんからの65の質問(Q)に対する回答(A)と解説で構成されています。本書は金原出版（東京）から発売されており、大手の書店で購入可能です。いずれは日本乳癌学会のwebサイトからも閲覧可能となるはずですが、現時点（2023年4月）でweb公開（<http://jbc.s.gr.jp/guideline/p2019/>）されているものは一つ前の版である2019年版ですのでご注意ください。



「共同意思決定」により最善の選択を

乳がん診療、ことにその治療にあたっては複数の選択肢から、治療法を選ばねばならない局面が数多くあります。納得のいく医療を受けるためには、患者さん自身が標準治療や診療方法について正しい知識を得た上で、医師と双方向で情報交換し、ご自身にあった治療を選択することが重要です。患者さんにとって難しい選択を医師と一緒に模索しようという課程が「共同意思決定（Shared Decision Making）」であり、この共同意思決定をサポートするのが患者さん向けガイドラインです。正しい情報収集のためにうまく活用してください。

今や、医師が治療方針を立てて患者さんはそれに従うだけ（これをパターンリズム（父権主義）と呼びます）という時代ではなくなりました。